

第1回 保育研修会 (小川保育園)

令和2年7月21日(火)

<保育者> 4歳児担任 今野 雄太 保育士 小池 翠 保育士

<研修テーマ> 友達や保育者との関わりの中で、主体的に遊びや生活する子を育てる
環境や援助の工夫

<ねらい> ・水や砂、泥に触れ、興味、関心をもって遊ぶ。
・好きな遊びを見つけて思いきり遊ぶ。

活動のひとこま ～なんでだろう?～



砂場に子どもたちが集まって、ダイナミックに遊んでいます。保育者も子どもたちに負けないくらい泥だらけになって遊び仲間になっています。

樋をつなげて、そこに水を流したい子どもたちですが、なかなか思うようにいきません。すると保育者は、「ここから水がもれちゃうね。なんでだろう?」と子どもたちに投げかけます。すぐに答えを言うのではなく、考えるきっかけを与える言葉掛けをすることによって、子どもたちは「成功させたい」という目的に向かって一生懸命考えます。

下にこのバケツを置いてみる?



なかなかうまくいかないなあ…

子どもたちは試したり工夫したり、失敗してまた試したりする経験の中でいろいろなことを学んでいきます。

その際、必ずしも思いを言葉にするばかりではありません。

保育者はその様子を見たり、心の声に耳を傾けたりしながら、充実感や達成感を得て、更に好奇心や意欲を高めていけるように一緒に考えたりアイデアを出したりしていきます。

事後研修会(グループワーク)



グループワークでは、本日の保育の環境、保育者の言葉掛けについて話し合いました。また、永倉先生からは子どもたちの様子を映像で振り返りながらご指導いただき、実りの多い研修となりました。

講師の永倉教授の指導・助言



◎子どもたちは遊びの中で自分を開放し、伸び伸びと遊んでいた。これは、保育者との信頼関係や他者との関係が育っていること、保育者間の良好な連携がベースにあることの成果である。

◎「子どもの主体性を尊重する」とは、子ども自らが興味や関心をもって環境に関わりながら多様な経験を重ねていけるようにすることであり、保育者からの働きかけも必要である。

◎室内遊びの時間の位置づけを考慮し、入室のタイミングや室内環境を設定するとよい。

◎「片付ける」とは、自分の遊びに「カタを付ける」こと。形としてできるようになるのではなく、片付けようとする気持ちになることが大切である。